



お薬手帳の重要性（災害時）

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

お薬手帳は、患者さんが服用している薬を把握することができ、それにより複数の医療機関から薬が処方された場合でも、薬の飲み合わせなどをチェックすることが出来ることから、普段からとても重要な役割を果たします。

さらに、災害時にはそのお薬手帳が非常に役に立ちます。地震などにより病院が倒壊したり、また停電により病院内のシステムが正常に働かない場合があります。また、病院にはカルテを保管していますが、建物の倒壊や津波などの影響で、カルテが紛失してしまう可能性もあります。災害時には倒壊を免れた病院や避難所などで臨時の診療所が開設されますが、このような状況では患者さんが診察を受けに行っても、普段どのような薬を服用していたか全く分からない状態になります。「血圧の薬を飲んでいた」という情報からでは、何種類もある降圧剤の中から、患者さんが実際に服用していた薬を正確に把握するのはかなり難しくなります。しかし、患者さんがお薬手帳さえ持っていれば、医師に見せることで服用していた薬は一目瞭然です。災害時には薬の流通などの影響で全ての薬がある訳ではありませんが、お薬手帳があれば、限られた薬の中で、患者さんがいつも服用している薬に最も近いものを選択することが出来ます。

また、お薬手帳には、副作用歴やアレルギー歴を記載することもあります。薬のアレルギーがある方、副作用を経験したことがある方は、いつもは病院のカルテなどに記載されているため医師も気をつけますが、災害時にはかかりつけ医以外の診察を受けることもしばしばです。その時に、アレルギーのある薬が処方されてしまう危険性もあります。そのような時にお薬手帳にアレルギー歴の記載があれば、その危険性も回避できます。

このようなことを考えると、きちんとお薬手帳を作っておくことが大切だと思います。まだお薬手帳をお持ちでない方は、かかりつけの薬局か病院でお申し出下さい。

災害に備えて、普段服用しているお薬、薬袋、お薬手帳、その他血圧手帳、血糖値手帳、ペースメーカー手帳など、ご自身が普段から健康管理に使っているものを災害時にきちんと持っていけるように日頃から心がけるようにしましょう。

昭和大学藤が丘病院 八木 仁史

